

令和4年度

事業計画書

特定非営利活動法人手話教師センター

1 事業の計画

新型コロナウイルスをとりまく状況は、現在もなお刻々と変化しているが、コロナとの共生時代に入ったものと認識し、感染対策を講じながら、本年度の方針として、オンラインのほうが適切なものについてはオンライン、対面のほうが適切なものについては対面で行なうことになった。

【育成】定例会を年に4回実施し、1回あたりの時間を長くする。オンラインで実施。△オンライン版日本手話ブラッシュアップ講座を年に5回実施する。（うち1回は手話言語学基礎講座）△ナチュラルアプローチ手話教授法講座をオンラインで開講する。模擬授業は対面で行なう。

【育成】集中研修会を前期（4回）と後期（4回）にわける。すべてオンラインで実施する。△第22回日本手話教育研究大会をオンラインで開催する。△手話教師育成指導者研修会をオンラインで1回実施する。

【派遣】WP手話寺子屋講師（株）アウトソーシングビジネスサービスダブルピーへの協力を継続して行なう。△企業、民間団体などへの講師派遣、登録手話通訳者研修会への講師派遣等を行なう。△個人レッスンへの講師派遣を行なう。

【開発】DVDの制作・発行を（株）アウトソーシングビジネスサービスダブルピーに委ねる。△オンラインによる手話学習サイト「サインアイオー」の監修を行なう。

【翻訳】日本財団助成事業「コミュニティ&学術分野におけるろう通訳者・リーダー養成事業」3年目となる。ろう通訳者、リーダー養成により力を入れる。1）人材を確保する①（オンライン翻訳講座を開講する）2）人材を確保する②（通訳理論講座、ろう通訳者養成講座、通訳理論講座を開講する）3）ろうフィを育てる①（ろうフィ養成講座の修了生を中心にした研修会を行う）4）ろフィを育てる②（通訳オンジョブトレーニングを行う）5）学術通訳に対応できるろうフィを育てる（手話言語学講座、学術分野における通訳実践等を行う）6）資格化をめざす（ろう通訳者の資格化をめざすため、情報収集・発信を行う）。

【啓発】ホームページ、Facebook、ツイッター等で広報、啓発を行う。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【19,000】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
手話教師育成事業	定例会の開催	年4回	オンライン	15名	手話教師 手話学習者 手話通訳者	約800人	400
	日本手話ブラッシュアップ講座等における教師育成	年5回	オンライン	10名	手話教師 手話学習者 手話通訳者	約480名	980
	ナチュラルアプローチ手話教授法講座の開講	1回	オンライン	7名	手話教師をめざすろう者	10名	600
手話教師研修事業	集中研修会	前期4回 後期4回	オンライン	6名	手話教師	100名	400
	日本手話教育研究大会	年1回	オンライン	15名	手話教師 手話学習者 手話通訳者	200名	1,000
	手話教師育成指導者研修会	年1回	オンライン	2名	手話教師指導者	15名	140
	手話教師自主研修会	通年	オンライン	10名	手話教師	100名	60
手話教師派遣事業	手話教師の派遣	通年	事務所	2名	市民 手話学習者 手話通訳者	約3,000名	3,500
手話教授法に関する教材開発事業	サインアイオーからの業務委託	通年	事務所	2名	手話学習者等	約200名	500
翻訳・通訳に関する事業	人材を確保する① オンライン翻訳講座	通年	オンライン	6名	手話学習者 手話通訳者	72名	3,410
	人材を確保する② ろう通訳者・フィード ーの養成	通年	オンライン	12名	ろう者 手話通訳者	18名	3,010
	ろうフィを育てる① ろうフィの研修	通年	オンライン	2名	ろう通訳者 フィード ー	250名	1,250

	ろうフィを育てる② 通訳 OJT プログラム	通年	オンライン	2名	ろうフィ 通訳利用者 市民	450名	770
	学術に対応できるろう フィを育てる	通年	オンライン	2名	ろう通訳者 リーダー	20名	1,850
	ろう通訳者の資格化	通年	オンライン	10名	ろう者 手話通訳者 市民等	20名	1,090
ろう者特化 の啓発 に関する 普及事業	ホームページ、SNS の運 用	通年	事務所	3名	ろう者、聴者 等、一般市民 正会員・賛助 会員	約 100人	40

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載 された 事業名	事業内容	日時	場所	従事者 人数	事業費 (千円)